

学校法人石田学園 2022 年度 事業計画書



キラリ輝く、大学ブランドの確立を目指して

広島経済大学は開学 55 周年を迎えます。

節目の年に際し、広島経済大学がこれからも、

高校生に選ばれ、

在学生が満足し、

卒業生が誇りに思い、

社会から信頼される—

そうした大学であるために、広報戦略を見直し、日頃の教育及び研究、学生の学びに関する活動といった情報の発信強化を通じて、学びに真摯な大学としてのイメージ確立を目指します。

1. 広報体制の強化

従来、大学においては広報と言えば「入試広報」であり、本学においても入試広報センターがその業務を担ってきた。しかしながら、少子化問題が進み、大学全入時代が近づくにつれ、多様なステークホルダーと良好な関係を築き、大学の価値を上げることを目的とした「大学広報」の重要性が高まっている。そうした時代の状況に鑑み、昨年度、学長直下の部署として学長室を新たに設置、大学広報業務を担当することとした。なお、入試広報については、入試業務との関係から、入試広報センターが継続して担当している。

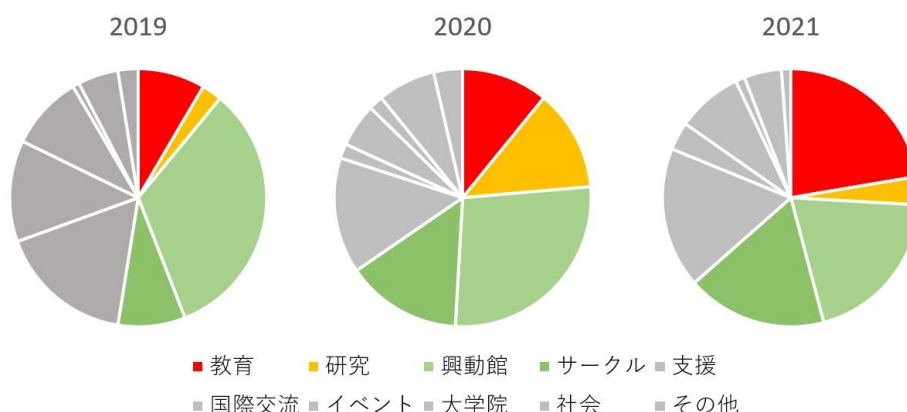
2022 年度は、いよいよ大学広報の戦略を刷新し、本格始動の年としたい。大学の知名度を上げるだけでなく、2013 年以來の大学改革の成果を社会に伝え、学びに力を入れている大学として評価されるように取り組む。学長室はプレスリリースやメディア対応などの業務を扱うが、そもそものニュースをつくるのは全教職員である。教育・研究の成果をメディア等通じて社会に広く伝え、貢献する姿勢で臨むよう、意識改革を進めたい。なお、2021 年度の教職員セミナー（2022 年 2 月開催）では「広報改革」をテーマとし、学長講話やシンポジウムを開催した。

2. 学びに関する広報の強化

本学の発信する情報はサークル活動や興動館プロジェクト活動などの学生活動に関するものの割合が高く、教育研究活動に関する情報発信の割合が低い傾向にあった。学生活動が活発なこと、特に興動館から届くトピックスが多いことは、学生が人間力を磨く経験を積んでいるということを示している。しかしながら、やはり、大学がステークホルダーに対して伝えるべき情報の主は、教育と研究である。特に高校生にとっては大学でどのよう

な教育を受けることができるのか、どのような学びが身につくのかは重要な関心事であり、その情報をしっかりと伝えることが求められる。

本学オフィシャルサイトに掲載したトピックスの割合



グラフに示すとおり、2020 年以降、教育研究に関するトピックスの割合は増えた。ただし、2020 年に関しては、主要因はコロナ禍で学生活動が減少した結果である。2021 年も引き続き同様の傾向だが、教育に関するトピックスの割合が増加した点に特徴がある。これは教育に関する情報発信を強化したことによる。教育に関する情報発信を強化することは、教育改革以降の取り組みをしっかりと発信することにとどまらない。学生にとって有意義であると同時に、社会貢献にもつながるような教育機会を新たに創出することが求められる。これについては、学部長を中心として学部学科が創意工夫に取り組む。

3. ステークホルダーとの関係強化に向けて

情報発信をする際には、こちらから一方的に発信するのではなく、常に、誰に対して、何を、どう伝えるかといったことを意識するよう心がける。

大学のステークホルダーは多岐にわたるが、2022 年度については特に、高校生、社会（企業）、メディアとの関係強化を検討する。高校生に対しては、高校での模擬授業、オープンキャンパスでの模擬授業や説明会の内容をよりわかりやすいよう再検討する。メディアに対しては、教育研究の成果を提供し続けるとともに、先方から教員の知見を求められた場合にすぐに対応できるよう体制を整える。企業については、包括提携を結ぶオタフクソース株式会社や株式会社サンフレッチェ広島のような、共同での研究調査や勉強会が行える関係の企業を増やすよう努める。

上記 3 点の目標を達成すべく、「教職員全員が広報担当である」という意識をもって行動を開始する年としたい。

ゼロから立ち上げる「興動人」を育成する

広島経済大学では、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目標としています。変化する時代に対応し、興動人育成のための特色ある教育プログラムのブラッシュアップを図っていきます。

1. 教育改革の促進

①教養教育

本学が目指す教養教育（良識ある日本人として国際人として生きていくために必要な教養）の理念と目的を確認し、時代に即応した科目の検討を行う。

- ・日本語教育の充実
- ・英語教育の充実
- ・自己理解系科目、他者理解系科目の再点検評価

②経済学部

「地域社会に信頼される経済学部として、地域の企業や自治体でリーダーとして貢献する人材を育成し、地域社会の発展に寄与する学部を目指す」の目標の下、学生のニーズや授業評価をもとに授業の質の改善を図る。さらに経済学の新しい動きに対応するため、カリキュラムの整備と充実に取り組む。

③経営学部

「これからの時代に求められる力を備え、現実のビジネスにつなげていくことができる人材、また既存のビジネスに加えスポーツビジネスなど今後の発展が期待される分野において活躍できる人材の育成を目指す」の目標の下、カリキュラムの再検討と授業内容及び方法の改善に努め、学生の満足度の向上を目指す。また特にスポーツ経営学科では、学科創設の理念を再確認し、次年度に向け、カリキュラムと授業内容の改善を検討する。

④メディアビジネス学部

「コンピューターや AI、情報通信技術、各種メディアの急速な発展と進化の時代の中で、柔軟に対応でき次代の社会を牽引できる人材を育成する」という学部の目標を、完成年度を迎えるにあたって再確認するとともに、新たな方向性及び将来像を検討する。また、ビジネス情報学科及びメディアビジネス学科の各人材育成目標の再確認、カリキュラムの見直しや授業内容方法の改善、学科相互の協力体制等の検討を行う。

⑤大学院経済学研究科

社会の要請や学生のニーズに基づき、カリキュラムの充実、授業内容の見直し等を行い、研究の拠点として誇りうる大学院の創造を目指す。

⑥時代に対応する新たな教育方法の開発

- ・オンライン授業（パソコン必携に対応）の充実を目指す。
- ・学生による授業評価アンケートの見直しを図り、学生の授業満足度の向上に繋げる。
- ・教員の教育力向上を目指して FD 研修会の充実を図る。
- ・IR（Institutional Research）による教育プログラムの改善支援を行う。

2. 教育施設の活用支援

①「知の館」としての図書館の活用支援

新入生対象のガイダンス等を充実し、入学直後から気軽に利用できる雰囲気の醸成に努める。また、2021 年度導入した「VPN システム」に加え、2022 年度導入予定の「GakuNin システム」により学外からのアクセスの利便性の向上を図るとともに、クラウド型の電子図書館サービス「LibrariE」を導入し、電子ブック等の利用を促進する。

②「創造の館」としての明德館の活用支援

中期計画で目標としている 300 名／1 日の利用者を目指し、さまざまなイベントの誘致、ゼミ活動などの利用を推進するほか、スチューデントコモンズやコネクションエリアの利用に向けて検討を行う。

③「実践の館」としての興動館の活用支援

興動館科目やプロジェクトの充実、各種イベントの開催など、学生に対して「興動館の魅力」を PR し続けることにより、全学生のプロジェクト参加率 25%以上を目指す。

④メディア情報センターの活用支援

3. 学習支援

①ラーニングサポートコーナーの充実

関連分野の教員やスチューデントアシスタント（SA）による英語、日本語、簿記、情報などの学習支援活動の充実を図る。

②成績不振者の支援

GPA 等を活用し、成績不振学生の状況をより詳細に分析し、ゼミ教員、学務センターや教育学習支援センター等の職員、部・サークル顧問、興動館プロジェクトコーディネーターなどが協力し成績不振学生への支援を強化する。

③その他

入学前教育の見直し、初年次教育の充実、障がいのある学生に対する支援体制の構築などに取り組む。

4. 意欲ある学生の安定的な確保

①入試科目の変更の検討

2025 年度入試から新学習指導要領に基づく入試制度が開始となることに合わせて、本学も入試科目の変更等を 2022 年度中に公表する。そのため、変更となる科目について重点的に高校でのヒアリングを行うとともに、他大学の状況も注視しながら本学の質保証のポリシーに従って科目設定の検討を行う。

②入試改革の継続

18 歳人口をはじめとする入試環境の動向を注視しながらも、基本的にはこれまでの戦略的定員割れ作戦を踏襲する。

③より学ぶ意欲の高い学生の確保を目指して

- ・入試関係の企画広報を充実し、本学の価値、強みを PR する。
- ・本学と良好な関係にある高校と、教育連携や課外活動等での高大連携を模索する。
- ・指定校制度や総合選抜型入試など、タイプの異なった入試を行うことで多様な新入生の確保を目指す。
- ・入学生に対し、教職員は Be Student-oriented で対応し、本学への満足度を高める。



▲「大戸屋マーケティングプランコンペ」
本選出場決定（経営学部経営学科）



▲森永乳業株式会社と産学連携し、
発表会を開催
（メディアビジネス学部ビジネス情報学科）



▲SDGs 目標 5 を目指して！
「サンフレッチェ広島レジーナ×スポーツ経営学科」講演会（経営学部スポーツ経営学科）



▲制作したドキュメンタリーが「東京ビデオ
フェスティバル 2022」に入賞。
（メディアビジネス学部メディアビジネス学科）

社会科学分野における「知の拠点」を目指す

地域の活性化、格差問題、環境破壊など社会の問題に向き合って意義ある提言を行い、地域と連携して、持続可能な社会をともに作ることを目指します。また、Society5.0に対応し、新たな未来の創造に貢献するために研究を促進、社会科学を主たるフィールドとする大学として、その責任を果たします。

1. 研究支援体制の整備

- ①研究成果による研究費配分の見直し
- ②インパクトファクターの高いジャーナルへの投稿を後押し（昇格条件のポイント換算等）
- ③権威ある国際学会等での研究発表（表彰制度）

2. 研究成果を教育へ還元

教員の研究から得られた新たな知見を授業に反映するよう、授業内容の見直しを行う。

3. 研究におけるコンプライアンスへの取り組み強化

コンプライアンス教育、研究倫理教育を実施し、研究不正防止体制を整備する。また教員が研究活動しやすい環境作り、研究費の適正な管理体制の整備等、サポート体制の構築を図る。

4. 外部資金獲得の促進

科学研究費応募のための申請書作成ポイントに関する説明会の実施、その他の外部研究費の獲得のための支援を検討する。

5. 研究双書の出版や学術図書出版の助成

教員の研究業績である研究双書、学術図書の出版の援助を充実するとともに、それらの審査委員会における査読機能を実質化するよう検討する。

6. SDG's の推進

持続可能な開発目標の原則に合致した活動を継続するとともに、世界が直面している課題解決に向け、「知の拠点」として研究を開始するとともに情報を発信し、地域貢献を目指す。

人材育成を通じて、社会の未来に貢献する

広島経済大学は「Be Student-oriented」、学生志向の、教育を重視する大学です。次代を担う若者にとって、学びの中で社会と連携する経験は非常に重要であり、そうした経験をより多く積むことで地域に貢献しようと願う人材へと成長していきます。本学では教育機会、人材育成を通じて、地域と連携し、貢献することを目指します。

1. 学生による地域連携事業の促進

- ①ゼミナールの一環として、行政や地域団体とコラボし、学生目線での提言や活動が行えるような機会を増やす。
- ②興動館の社会貢献分野のプロジェクトをさらに充実する。

2. 地域企業との連携の強化

- ①株式会社サンフレッチェ広島との包括連携協定を深化させる。
- ②地域の企業との共同研究や開発事業に取り組む。

3. スポーツを通じた地域活性化への取り組み

- ①国際スポーツサロンの再開を目指す。
- ②トップス広島とのコラボや、本学のスポーツ施設を利用して地域活性化につながるようなイベントを実施する。

4. 生涯学習機会の提供

- ①コロナ禍に対応し、オンライン等も活用しながら社会人向けのキャリアアッププログラムを提供する。
- ②リカレント教育の一環として、カルチャー講座の復活を検討する。

5. 機関リポジトリによる教育研究成果の発信

図書館と地域経済研究所が連携し、本学の研究成果を機関リポジトリとして蓄積し広く発信する。

世界へはばたく、真のグローバルISTを育成

世界のどこにいてもすぐにつながれる時代、世界はずっと身近になりました。世界への一番のハードルは、もはや私たちの意識そのもののように見えます。本学では、学生が大学時代に世界とつながる経験を積み、世界とともに生きる意識を身に付けられるよう、環境を整えていきます。

1. 世界で活動する学生プロジェクトを支援

興動館プロジェクト：インドネシア国際貢献プロジェクト、カンボジア国際交流プロジェクト、広島ハワイ文化交流プロジェクトなどの助成を続けるとともに、新規プロジェクト立ち上げの支援を行う。

2. 海外の関係校との連携強化

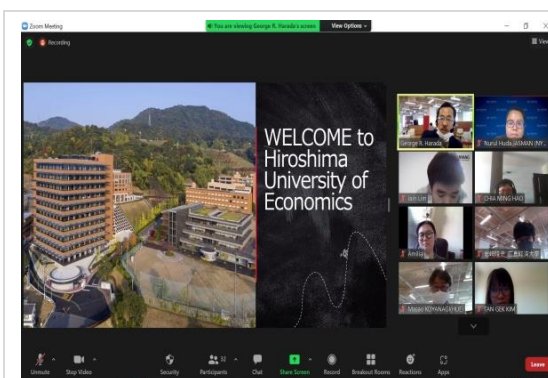
姉妹校（6 大学）、協定校（14 大学）、NIBES 加盟校（20 大学）との関係を強化する。

3. 留学生支援の拡充と受け入れ強化

コロナ禍ではあるが、本学の国際交流の目玉である STEP の支援を充実し、多くの留学生の受け入れに努める。

4. 授業における国際化

- ①授業の一環としての海外視察。
- ②英語での授業の開発。



▲南洋ポリテクニク（シンガポール）とのワークショップ（2021）

▼現地とのオンライン会議開催のため、英会話の勉強会（インドネシアプロジェクト、2021）



“支援の広経大”、手厚いのはキャリア支援だけじゃない

「Be Student-oriented すべては学生のために」（教職員行動指針）のもと、広島経済大学の支援の手厚さは、高い評価を得ています。「やる気さえあれば、あらゆる機会を大学が用意して、背中を押してくれる」とは、卒業を前にした4年生の言葉。「就職の広経大」と評されるキャリア支援だけでなく、多様な支援で学生の成長を支えます。

1. 奨学金制度

学業成績優秀者奨学金のほか、課外活動奨学金（学費減免を含む）や、アクティブ奨学金などさらなる充実を図る。

2. キャリア支援

「チャレンジ100」として選定した重点企業への就職60社以上、上場企業への就職率20%以上、公務員合格者30名以上、企業訪問による情報収集200社以上を目標に、学生の志望度の高い企業・団体等への就職支援を行う。

①一人ひとりの能力、個性に合わせた「オーダーメイド」の就職支援

ゼミ担当教員、部・サークル顧問等と協力し、キャリアセンター職員が一人ひとりの学生に寄り添い、よりきめ細かな就職支援を行う。

②地域密着型の就職支援

地元への就職を希望する学生に対し、特に本学と就職支援に関する協定を締結している愛媛県、島根県、山口県、岡山県との連携強化によるUターン、Iターンの就職支援の強化を図る。



▲きめ細やかな支援体制
(履歴書・エントリーシート対策講座 2021)

▼県外出身者の就職支援も万全 (Uターン就職講座 2021)



③学部・学科別就職支援

- ・学部・学科別のインターンシップの開拓を行う。
- ・学部・学科別の「進路・就職支援プログラム」実施を検討する。

④その他

- ・各種インターンシップの見直しと充実を図る。
- ・低学年次からのキャリア教育を強化する。
- ・コロナ禍での就職活動に対応し、ハイブリッド型採用に対応した就職支援を行う。

3. 女子学生支援の継続と改善

- ①キャンパスライフ支援については、本学の女子学生会「こまち会」の活動をサポートする。同時に、学内に対する活動内容の周知に努め、イベントの参加率を向上させる。
- ②キャリア支援としては、履修生の評価が高い「女子学生支援関係科目」を継続する。



▲女子学生支援の1つ、「女子学生のためのキャリアデザイン研究会」(2021)

4. 学習支援（教育のページ参照）

5. 学生活動支援

- ①興動館プロジェクトの経費支援とコーディネーターの充実。
- ②サークル活動における活動費の支援及び指導体制の充実。

1. 財務の現況（2020 年度決算、10 万円以下切り捨て）

(単位：円)

資産の部	
有形固定資産	21,996,000,000
(内 土地)	(4,110,000,000)
特定資産	9,824,000,000
(内 現預金)	(6,035,000,000)
その他の固定資産	10,434,000,000
(内 有価証券)	(8,453,000,000)
流動資産	2,940,000,000
(内 現金預金)	(2,887,000,000)
資産の部合計	45,196,000,000
負債の部	
固定負債	845,000,000
流動負債	550,000,000
負債の部合計	1,395,000,000

2. 予算編成方針

予算編成は、原則昨年度当初予算をもとに作成する。ただし収入の部における学生生徒等納付金については、在学生数＋入学予定者数を予測した数値をもとに算定する。支出の部については、昨年比ゼロシーリングを原則とするが、人件費等やむを得ないものについては見込み額を計上する。施設設備費については、事業計画に基づいて金額を計上する。この方針の下で、教育活動収支、事業活動収支のバランスを目指す。教育上やむを得ぬ支出は、教育効果を優先する。

以上の編成方針のもと作成した 2022 年度予算は、教育活動収支差額、事業活動収支差額、いずれもが支出超過となる予算を組まざるを得なかった（ただし減価償却額を減じた資金ベースでは収入超過となるため資金がショートすることはない）。この主たる原因は戦略的定員割れ作戦による学生数の定員未充足にあるが、新入生の質を勘案すればやむを得ないと思う。

2022 年度 行事予定表

Schedule

【4 月】

入学式
 新入生各種ガイダンス等
 前期授業開始
 興動館プロジェクト募集開始

【5 月】

高校教員対象大学説明会
 学生大会

【6 月】

興動館プロジェクト認定式
 定期演奏会
 オープンキャンパス
 保護者会春季役員会

【7 月】

オープンキャンパス
 研究倫理及びコンプライアンス研修会
 保護者対象就職説明会

【8 月】

前期学内定期試験
 夏期休暇
 前期追試験
 サマー授業
 オープンキャンパス
 前期再試験

【9 月】

教職員セミナー
 前期学位記授与式
 後期授業開始
 総合型選抜入試
 大学院Ⅰ期入試

【10 月】

3 年生対象就職ガイダンス
 全学ゼミ対抗スポーツ大会
 大学祭
 インターンシップ報告会

【11 月】

同窓会総会
 保護者会秋季役員会
 祇園・興動祭
 学校推薦型選抜入試
 業界・企業研究対策講座
 学生大会

【12 月】

入学前スクーリング
 U ターン就活講座
 卒業生による就活セミナー
 興動館プロジェクト活動報告会
 冬期休暇

【1 月】

新年互礼会
 創立記念日
 後期学内定期試験

【2 月】

新年度興動館プロジェクト立ち上げ説明会
 後期追試験
 一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅰ期入試
 学校推薦型選抜入試
 スプリング授業
 学内合同企業セミナー
 後期再試験
 大学院Ⅱ期入試
 留学生入試Ⅰ期

【3 月】

一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅱ期入試
 学校推薦型選抜入試
 留学生Ⅱ期入試
 学位記授与式
 学生定期健康診断

